



SⅡ学校だより

No.04



小豆沢学びのエリア(志村二小・志村四小・志村二中)

校長 小室 仁一

自分を大切にするための「人間関係のヒント」

各クラスでいじめアンケート調査を実施し、志村二中の生徒の皆さんが安心・安全に学校生活を送れるよう取り組んでいます。今回は、友人関係で孤独や不安を感じたときに、心を少し軽くするためのヒントをお伝えします。

心理学には「2:7:1の法則」というものがあります。10人の人が集まると、自然と次のような割合に分かれるという法則です。

- ・【2人】あなたを無条件で理解し、好きになってくれる人
- ・【7人】状況によって、賛成したりしなかったりする普通の人
- ・【1人】どんなに気を遣っても、なぜかあなたを否定してくる人

世の中のどこへ行っても、10人中1人は「どうしても気が合わない人」が不思議と存在するものです。これはあなたの性格が悪いからではなく、食べ物の好き嫌いと同じ「相性の問題」です。全員に好かれようと無理をする必要はまったくありません。

現在、日本代表を率いる森保一監督も、実は中学生の頃に部活動で激しいいじめを経験しています。他校から練習に参加していた森保監督は、実力を認められて試合に出るようになると、同級生から無視されるようになりました。ある日、部室に行くと自分のスパイクだけがグラウンドに投げ捨てられていたこともあり、ショックで「練習に行きたくない」と父親に漏らしたそうです。

しかし、そのいじめに気づいていた部活の先輩たちが、いつも優しく声をかけてくれました。森保監督は、自分を嫌う「1割の人間」に執着するのをやめ、自分を受け入れてくれる先輩たちという「心のよりどころ」に目を向けました。その逃げ場があったからこそ、大好きなサッカーを諦めずに続けられたのです。

森保監督は、当時のことをインタビューで次のように語っています。

「嫌なことがあった時に『コミュニケーションを取る相手を替える』という自分なりの対策を覚えたのは、この時だったと思います。いじめや嫌がらせをする人がいたら、それ以外の人と付き合いさえいい。ネガティブな気持ちの時は、周りの全員から攻撃されているように想像してしまいましたが、そんなことはないのです。同じクラスの人と話せないなら、他のクラスや他の学校の人、あるいは大人と話してもいい。自分を受け入れてくれる人は、必ずいます」

中学生の時に「上手に逃げる(環境を替える)こと」を覚えた森保監督は、大人になり、日本代表監督として厳しい批判を受けることがあっても、「色々な意見がある。成功のヒントにしよう」と、批判すらも自分の成長の糧に変えています。

もし今、クラスや部活動でつらい思いをしている人がいても、ネガティブな気持ちに負けて「周りの全員が敵だ」と思い込まないでください。あなたを傷つける「1割の人」のために、自分の心をすり減らすのはとてももったいないことです。

同じクラスがすべてではありません。他のクラスの友人、他校の友達、あるいは家族や先生など、信頼できる大人に話をしてみてください。あなたを理解してくれる「2割の人」は、探せば必ずどこかにいます。

自分を責めず、時には上手に「逃げ場(よりどころ)」を作りながら、自分自身を大切にして学校生活を送ってくれることを願っています。

あいさつ運動

7月7日(火)～7月9日(木)の3日間、志村第二小学校と志村第四小学校の校門前であいさつ運動を行いました。生徒会が中心となって、参加生徒を募り、積極的に取り組むことで小学生の見本となり、活発な雰囲気づくり、あいさつの大切さを伝えました。各学年多くの生徒が参加し、小学生と共にあいさつをすることで、朝からとてもほのぼのとした時間が流れました。



セーフティー教室

7月3日(金)に、東京都ファミリーeルール事務局の方に来ていただき「インターネットの安心・安全な使い方」について話をいただきました。「ネットへの投稿は匿名でも特定されるもので、投稿前に立ち止まり本当に大丈夫か考えることが大切。ネット上での秘密は漏れるものなので人の悪口や嫌がることは書き込まない。また、大事になると書き込んだ相手の保護者から損害賠償請求を求められることもあるので十分注意するように」と話がありました。本校でもSNSに関するトラブルが多々起きているのは事実です。学校側も、今回のようにSNSの使い方の指導を継続していきます。SNSの指導に関しては学校側だけでは限界があります。保護者の皆様も、ご家庭でお子様のSNS等の使用状況を把握すると共に、ご家庭でのルールの見直しや再確認をお願いいたします。



